



本校の校名は、「赤間商業講習所」(明治十七年～明治十九年)・「赤間商業学校」(明治十九年～明治三十四年)・「市立赤間商業学校」(明治三十四年～明治三十五年)・「市立下商業学校」(明治三十五年～昭和十二年)・戦後の学制改革(新制高校)で「下関商業高等学校」(昭和二十三年～現在)と変遷を辿って現在に至ります。

校名の變更は主として、教育制度の變更や市の名称變更に伴うものでしたが、もともと全国的に見ても商業学校は、歴史的には市立か町立として創立されたものでした。参考までに、県下では、萩・柳井・防府・岩国の商業(商工)高校は、町立で発足しており、宇部は市立で、徳山・山口は私立であります。これらは、財政や政

党との関係もあるようで、現在に至るまで色々な経緯を経ているのです。

ところで、本校は勿論、下関市立下商業高等学校が正式な名称ですが、全国的に「下商」として名が通っており、市内には商業高校は本校しかない(参考までに昭和のある時代には商業の学校が三校ある時代がありました)ことなどから「下関商業高等学校」を校名としているようです。

第十二代の上田強校長が執筆された「下商七十年史」の記録によると、全国的な情勢下に本県も整理統合の実施にとりかかり、同窓各位を初め本校関係者が本校の運命について多大の関心と憂慮を払ったのは素より当然の事であり、我々の念願は、「本校を存続」させ、「下商」の名を残すこ

とであります。・・・結局、念願の通り本校は、「下関商業高等学校」の名で、中国地方で唯一の商業高等学校として残ることが本日(昭和二十四年四月十二日)決まったのであります。さらに本校の通学区域は、全県一円で殆ど従来と異なることはありません。難関を突破して、学統を守り得、本校を今日あらしめた先輩各位に対して感謝し、満足と感激に浸っておる次第です。勿論、この事については、市当局や同窓各位その他方々の後援によることで大いなる深謝に堪えません。この上、我々はこれを機に更に一層精魂を傾けて「古くて新しい学園」の建設に邁進したいと思っております。さらに、同氏の著書「千畳史話」の「校名のはなし」のなかで、

で、当然名称も変えなければならなかった時には、特に「市立」と冠しないで、ただ単に「下関商業高等学校」としたのである。\*昭和二十九年十月十七日発行の同窓会報にも記述あり

「校名のはなし」のなかで、  
 「・・・こういう歴史を知らないで、中等学校(高校)といえ、県立の多い現状を見ている人達の中には、市立下商業という名刺を出す」とか「野郎で強いのは、市立・県立の下商のどちらですか」など聞かれることも多く、そこで、昭和二十三年の学制改革時

参考までに、昭和四十年代に市の予算が逼迫した結果、当時の下関第一高等学校(現在の下関中等教育学校の前身)が市立から県立へと移管して、本校の定時制の先

管された(昭和四十一年四月)任  
 免権が下関市教委から山口県教委へ移管され定時制の先生方は県立の教員へ)経緯があります。本校の定時制は、県立との巷の話を伺いますが、正しくは「全日制・定時制ともに、下関市立下商業高等学校」なのです。入学時の手続きや卒業証書などの校名表記をご覧になっていただければお分かりになると思います。今も昔も下関市の歩みと本校が密接に関係していることがお分かりいただけたいと思います。ちなみに、姉妹校の鹿兒島商業高校も鹿兒島市立の高校であり、我が国で唯一、公立で男子のみの商業高校なのです。